

1. 第3次総合計画における施策の体系									
目指す都市像 (政策)	番号	7	名称	快適な生活を育むまち					
施策	番号	5	名称	河川環境の整備と維持					
主担当部	まちづくり部		主担当課	道路河川課		部長名	中尾至宏		
関係部	生活環境部・下水道局		関係課	環境保全課・下水道管理課					
2. 施策の基本方針(第3次総合計画の基本方針をもとに記入する)									
この施策の目的	既に改修済みである準用河川の適切な維持管理、及び水路改修による浸水被害の解消に努め、市民が安全で安心して暮らせる河川環境を目指す。								
3. 施策の現状分析(第3次総合計画の現状と課題をもとに記入する)									
この施策の概況	この施策に対する市民ニーズなど、 具体的な事項について			社会環境や国・県の動向など、 施策を取り巻く環境について					
	近年の気候変動による集中豪雨や都市化に伴う雨水流出量の増加による浸水被害の解消、及び排水不良による滞泥や悪臭等の改善等、水路の改修要望が非常に多い。			大和川流域に関わる市町村・県・国が一体となって、大和川系の総合的な治水対策の確立や万葉の清流を復活すべく水質の回復を目指している。					
これまでの成果	浸水対策・環境改善ともに、施策の実施に伴い着実に成果を挙げている。								
4. 指標及びコストの推移									
指標の推移	名称及び単位等		23年度	24(評価) 年度		25(今) 年度	26(来) 年度	29(総計 目標) 年度	備考欄
			実績	目標	実績	目標	目標	目標	
	施策指標① (成果指標)	下流の大和川の恒久的な 環境基準の達成(5mg/L)	3.2	5.0	2.9	5.0	5.0	5.0	
	施策指標② (成果指標)								
	施策指標③ (成果指標)								
	施策指標④ (成果指標)								
施策指標⑤ (成果指標)									
コストの推移 (単位:千円)	財源の内訳		決算	当初予算	決算	当初予算	見込み	見込み	
	歳出 (直接事業費)(a)		116,941	163,934	188,232	167,084	230,000		
	歳入 (b)	受益者負担額							
		国や県からの 補助金その他		20,000	13,139	30,000	30,000		
	(a) - (b) = 一般財源		116,941	143,934	175,093	137,084	200,000		
	正職員	従事者数 (単位:人)	7.45	7.45	7.45	7.70	7.85		
		人件費(c)	46,667	46,212	46,212	47,763	48,694		
	トータルコスト (a) + (c)		163,608	210,146	234,444	214,847	278,694		

5. 施策の評価						
有効性の評価	この施策の 成果の達成度はどうか	2	1 高い	2 やや高い	3 やや低い	4 低い
	成果向上の 可能性はどうか	1	1 十分ある	2 ある程度ある	3 あまりない	4 ない
	説明	水路の改修要望が多いなか、浸水対策及び排水不良の改善等着実に整備は進捗しているが、ゲリラ豪雨や都市化に伴い、今後更に河川環境の悪化が見込まれるため、成果向上の可能性は充分にある。				
	市政全般に対する 貢献度はどうか	1	1 高い	2 やや高い	3 やや低い	4 低い
	説明	「快適な生活を育むまち」を実現するにあたり、河川環境の整備は生活環境の向上に不可欠なものであるため、貢献度は非常に高い。				
6. 施策の課題						
この施策の課題	幹線水路の整備により概ね浸水被害は解消されてきたが、近年の気候変動による局地的な集中豪雨や都市化に伴い雨水流出量が増加している傾向があるため、更なる浸水対策が必要である。 また、大和川の水質は年々良くなっているが、全国の一級河川の中では依然として水質の順位が低いいため、引き続き改善が求められている。					
7. 次年度以降の施策の方向性						
総合評価 1次評価	次年度以降の方向性	1	1 強化する	2 維持する	3 縮小する	
	説明	ゲリラ豪雨や都市化に伴う雨水流出量の増加や既存水路の老朽化により、今後更に河川環境の悪化が見込まれるため、職員を増員し、施策を強化する必要がある。				
総合評価 2次評価	次年度以降の方向性		1 強化する	2 維持する	3 縮小する	
	説明					
8. 構成事業の方向性 (それぞれの事務事業における今後の最適手段を検証する)						
1次評価	説明	浸水対策や環境改善を担う公共下水道事業、排水路整備事業は拡大すべき事業である。 また、河川機能の維持や活用のため、河川維持補修事業、河川改良事業は継続して実施する必要がある。				
2次評価	説明					

9. 施策を構成するそれぞれの事務事業の評価

※下記評価の解説

- ・貢献度—事務事業評価の結果をもとに、この施策での貢献度(重要度)を絶対評価で示しています。
(a: 不可欠かつ施策の中核をなす事業、b: 不可欠な事業、c: 不可欠ではないが実施が望ましい事業、d: あまり有効ではない事業)
- ・方向性—事務事業評価の結果をもとに、この施策からみた各事務事業の今後の方向性を絶対評価で示しています。
(拡大する、見直しながらかつ続ける、縮小する、廃止又は休止する、完了する)
- ・優先度(ソフト事業(任意)のみ)—施策内での事務事業の優先度を相対評価で示しています。
(優先度が高い順に A、B、C、D)

(ハード事業)

課名及び事務事業名 (転記)	評価の種類	事業の内容(転記)	H24 決算額 (転記)	事務事業評 価での方向 性(転記)	施策評価		
					貢献 度	方向性	優先度 (ソフト任意)
道路河川課 河川改良事業	ハード	一級河川の改修事業を実施している奈良県と連携し、周辺の道路計画に基づき管理堤を整備する。	2,634	1	b	継続する	—
道路河川課 河川維持補修事業	ハード	準用河川や雨水貯留施設の機能の維持や安全対策が必要とされているため、堆積土砂の浚渫(しゅんせつ)や除草、または防護柵の設置等適切な維持管理を図る。	7,412	1	b	継続する	—
道路河川課 公共下水道事業	ハード	公共下水道(雨水)事業認可区域内の浸水被害を解消するため、概ね10年に1回の大雨に対応できる水路改良を行う。	24,921	1	a	継続する	—
道路河川課 排水路整備事業	ハード	市内の水路全般において、水路改修や排水管の清掃など維持管理に努めながら排水機能を高め、浸水対策や環境の改善を図る。	153,265	1	a	継続する	—

○

ハード事業

P L A N 計 画	事務事業名	河川改良事業							
	担当課名	道路河川課			課長名	福井 政三			
	総合計画の 位置付け	目指す都市像	7	快適な生活を育むまち					
		施策	5	河川環境の整備と維持					
	予算事業名	河川改良事業費							
	事業の開始年度	平成		年度	事業の終了予定年度	平成	年度		
事業の 目的	河川の管理堤を整備し、市民の安全で、かつ安心して暮らせる河川環境を目指す。		事業の 内容説明 (全体 計画)	一級河川の改修事業を実施している奈良県と連携し、周辺の道路計画に基づき管理堤を整備する。					
D O 実 施	指標の 推移	名称及び単位等		23年度	24(評価) 年度	25(今) 年度	26(来) 年度	29(総計 目標) 年度	
				実績	計画	実績	見込み	見込み	
	活動指標 ①	進捗率(整備件数/要整備件数)		100%	100%	100%	100%	100%	
	活動指標 ②	-		-	-	-	-	-	
	コストの 推移 (単位: 千円)	財源の内訳			決算	当初予算	決算	当初予算	見込み
		歳出(直接事業費)(a)			13,438	4,894	2,634	4,689	10,000
		歳入 (b)	受益者負担額		0	0	0	0	0
			国県補助金等その他		0	0	0	0	0
		(a) - (b) = 一般財源			13,438	4,894	2,634	4,689	10,000
		正職員	従事者数(単位:人)		0.55	0.45	0.45	0.45	0.50
人件費(c)			3,445	2,791	2,791	2,791	3,102		
トータルコスト(a)+(c)			16,883	7,685	5,425	7,480	13,102		
単位当 りコスト	計算式等								
備考 (これまでの 実績等)									
C H E C K 評 価	(費用も含み) 目標(計画)どおり 進んでいるか	1	1 予定どおり	2 概ね予定どおり	3 達成できていない				
		説明	一級河川管理堤の整備を予定通り遂行できた。						
A C T I O N 修 正 行 動	(費用も含み) この事業の 今後の方向性	1	1 継続する	2 見直す	3 廃止又は休止する	4 完了する			
		説明	奈良県と連携した一級河川の管理堤整備区間が完了したことにより、今後は準用河川の管理堤を整備し、市民の安全で、かつ安心して暮らせる河川環境を目指す。						

○

ハード事業

P L A N 計 画	事務事業名	河川維持補修事業							
	担当課名	道路河川課			課長名	福井 政三			
	総合計画の 位置付け	目指す都市像	7	快適な生活を育むまち					
		施策	5	河川環境の整備と維持					
	予算事業名	河川維持補修費							
	事業の開始年度	平成		年度	事業の終了予定年度	平成	年度		
DO 実 施	事業の 目的	既に改修済みである準用河川の適切な維持管理を図り、市民が安全で安心して暮らせる河川環境を目指す。		事業の 内容説明 (全体 計画)	準用河川や雨水貯留施設の機能の維持や安全対策が必要とされているため、堆積土砂の浚渫(しゅんせつ)や除草、または防護柵の設置等適切な維持管理を図る。				
	指標の 推移	名称及び単位等		23年度	24(評価) 年度	25(今) 年度	26(来) 年度	29(総計 目標) 年度	
				実績	計画	実績	見込み	見込み	
	活動指標 ①	進捗率(整備件数/要整備件数)		100%	100%	100%	100%	100%	
	活動指標 ②	-		-	-	-	-	-	
DO 実 施	コストの 推移 (単位: 千円)	財源の内訳		決算	当初予算	決算	当初予算	見込み	
		歳出(直接事業費)(a)		9,211	8,649	7,412	9,284	20,000	
		歳入 (b)	受益者負担額		0	0	0	0	0
			国県補助金等その他		0	0	0	0	0
		(a) - (b) = 一般財源		9,211	8,649	7,412	9,284	20,000	
		正職員	従事者数(単位:人)		0.70	0.65	0.65	0.65	0.75
			人件費(c)		4,385	4,032	4,032	4,032	4,652
		トータルコスト(a)+(c)		13,596	12,681	11,444	13,316	24,652	
単位当 りコスト	計算式等								
備考 (これまでの 実績等)									
C H E C K 評 価	(費用も含み) 目標(計画)どおり 進んでいるか	1	1 予定どおり	2 概ね予定どおり	3 達成できていない				
		説明	準用河川等の機能の維持及び安全対策共に、予定通り遂行できた。						
A C T I O N 修 正 行 動	(費用も含み) この事業の 今後の方向性	1	1 継続する	2 見直す	3 廃止又は休止する	4 完了する			
		説明	準用河川等の機能の維持や安全対策のために、今後も継続する必要がある。						

○

ハード事業

P L A N 計 画	事務事業名	公共下水道事業						
	担当課名	道路河川課			課長名	福井 政三		
	総合計画の 位置付け	目指す都市像	7	快適な生活を育むまち				
		施策	5	河川環境の整備と維持				
	予算事業名	浸水対策下水道事業費						
	事業の開始年度	昭和	42	年度	事業の終了予定年度	平成	年度	
事業の目的	公共下水道(雨水)事業認可区域内の浸水被害を解消し、市民が安全で安心して暮らせる生活環境を目指す。		事業の内容説明 (全体計画)	公共下水道(雨水)事業認可区域内の浸水被害を解消するため、概ね10年に1回の大雨に対応できる水路改良を行う。				
指標の 推移	名称及び単位等		23年度	24(評価) 年度		25(今) 年度	26(来) 年度	29(総計 目標) 年度
			実績	計画	実績	見込み	見込み	見込み
活動指標 ①	公共下水道(雨水)計画区域整備率		45.8%	45.9%	46.0%	46.1%	46.2%	46.5%
活動指標 ②	-		-	-	-	-	-	-
D O 実 施	コストの 推移 (単位: 千円)		決算	当初予算	決算	当初予算	見込み	0
	財源の内訳							
	歳出(直接事業費)(a)		6,620	38,000	24,921	50,800	40,000	
	歳入 (b)	受益者負担額	0	0	0	0	0	
		国県補助金等その他	0	20,000	13,139	30,000	30,000	
	(a) - (b) = 一般財源		6,620	18,000	11,782	20,800	10,000	
	正職員	従事者数(単位:人)	1.70	1.70	1.70	1.85	1.85	
		人件費(c)	10,649	10,545	10,545	11,476	11,476	
トータルコスト(a)+(c)		17,269	48,545	35,466	62,276	51,476		
単位当たりコスト	計算式等							
備考 (これまでの実績等)								
C H E C K 評 価	(費用も含み) 目標(計画)どおり 進んでいるか	2	1 予定どおり	2 概ね予定どおり	3 達成できていない			
		説明	通行規制について地元との調整に不測の日数を要したため。					
A C T I O N 修 正 行 動	(費用も含み) この事業の 今後の方向性	1	1 継続する	2 見直す	3 廃止又は休止する	4 完了する		
		説明	近年の気候変動による集中豪雨や都市化に伴う雨水流出量の増加により、緊急的な災害対応等が見込まれるため、従事者の増員や予算の確保が必要となる。また、事業の目的を早期に達成するため、継続して重点的な整備を行う必要がある。					

○

ハード事業

P L A N 計 画	事務事業名	排水路整備事業							
	担当課名	道路河川課			課長名	福井 政三			
	総合計画の 位置付け	目指す都市像	7	快適な生活を育むまち					
		施策	5	河川環境の整備と維持					
	予算事業名	下排水路管理費							
	事業の開始年度	平成		年度	事業の終了予定年度	平成	年度		
事業の目的	排水路の整備・改修により、市民が安全で、かつ安心して暮らせる生活環境を目指す。		事業の内容説明 (全体計画)	市内の水路全般において、水路改修や排水管の清掃など維持管理に努めながら排水機能を高め、浸水対策や環境の改善を図る。					
D O 実 施	指標の推移	名称及び単位等		23年度	24(評価)年度	25(今)年度	26(来)年度	29(総計目標)年度	
				実績	計画	実績	見込み	見込み	
	活動指標①	進捗率(整備箇所数/要整備箇所数)		80.6%	100%	82.4%	100%	100%	
	活動指標②	-		-	-	-	-	-	
	コストの 推移 (単位: 千円)	財源の内訳			決算	当初予算	決算	当初予算	見込み
		歳出(直接事業費)(a)			87,672	112,391	153,265	102,311	160,000
		歳入 (b)	受益者負担額		0	0	0	0	0
			国県補助金等その他		0	0	0	0	0
		(a) - (b) = 一般財源			87,672	112,391	153,265	102,311	160,000
		正職員	従事者数(単位:人)		4.50	4.65	4.65	4.75	4.75
人件費(c)			28,188	28,844	28,844	29,464	29,464		
トータルコスト(a)+(c)			115,860	141,235	182,109	131,775	189,464		
単位当たりコスト	計算式等								
備考 (これまでの実績等)									
C H E C K 評 価	(費用も含み)目標(計画)どおり 進んでいるか	2	1 予定どおり	2 概ね予定どおり	3 達成できていない				
		説明	従来の生活環境の向上、近年における都市化や集中豪雨等の緊急対策を図るため、地元からの要望も高く増大しているが、順次計画を行い改善・整備を図っている。						
A C T I O N 修 正 行 動	(費用も含み)この事業の今後の方向性	1	1 継続する	2 見直す	3 廃止又は休止する	4 完了する			
		説明	事業の目的達成や緊急対策の対応のため、事業の継続性が必要である。また、早期対策が図られるよう予算の確保及び従事者の増員が必要である。						